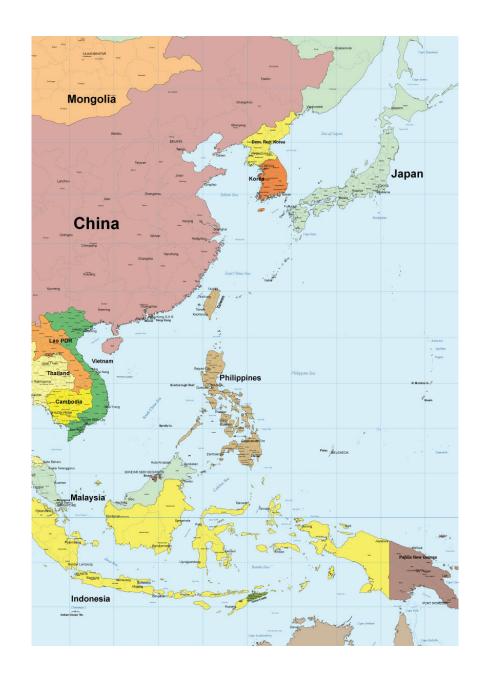
# フィリピンと北朝鮮の関係

フィリピンの安全保障の観点から

山根健至 福岡女子大学

### はじめに

- 両国の関係の変遷に影響した要素は何であろうか。
- フィリピンにとっての北朝鮮との関係を どのように捉えることができるだろうか。
- ・本報告では、1980年代末に本格的に始まった両国の国交樹立過程とその前後を、特に国交交渉のポイントとなったフィリピンの安全保障にかかわる要素との関連で振り返り、上記の点を検討する。



# 1. 歷史的背景

#### □アメリカの同盟国として

・冷戦構造の下で一貫して反共色の強いスタンスを維持していた フィリピンは、まさに北朝鮮の対極にあった。

#### ■東側諸国との関係改善

- ・1970年代に複数の社会主義国と国交
- ・中国と1975年6月、ソ連とは1976年6月に国交を樹立した。こう した流れの中で、北朝鮮との国交樹立が浮上する。

### ■関係改善に向けた交渉の開始

・1989年以降、フィリピンと北朝鮮の国交樹立に向け、毎年のよ うに両国の外交担当者の接触、協議が行われるようになった。



### 2. フィリピン国内の共産主義勢力の脅威

#### ■国内安全保障上の脅威:CPP-NPA

- ・政府/国軍は、フィリピン共産党一新人民軍(CPP-NPA)の活動を最も強い脅威として認識してきた。
- ・CPP-NPAは1990年前後に勢力を退潮させるが、フィリピンと北朝鮮の国交交 渉が本格化する時期においては、依然としてフィリピンの安全保障上、最も重要 な脅威であった。

#### ■北朝鮮とCPP-NPA

- ・1980年代末頃、CPP-NPAへの外国による支援は重要な問題であった。
- ・フィリピン政府は、北朝鮮がCPP-NPAに対する支援を行っているとみていた。 CPPと朝鮮労働党の交流、NPAの訓練、武器の密輸、など

#### ■北朝鮮との国交樹立交渉とCPP-NPA問題

- ・北朝鮮との国交樹立に対しては、国軍が抵抗勢力となってきた。
- ・交渉の過程で、北朝鮮側がCPP-NPAを支援しないことを明言。





# 3. 北朝鮮の核・ミサイル開発疑惑

フィリピンは国交樹立の条件として、北朝鮮に

①国連加盟、②核疑惑の解消、③CPP-NPAへの支援停止

を求めていた。

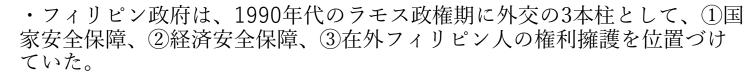
北朝鮮:1993年3月にNPTから脱退

⇒国交樹立に向けた外交交渉は暗礁に乗り上げる



### 4. フィリピンと韓国の関係

- ・北朝鮮との国交交渉が本格化した当初から、フィリピンが韓国に配慮しながら交渉を進めていたことが伺える。
- ・1995年2月、韓国政府の反発を受け、フィリピン政府は北朝鮮との国交樹立交渉の延期を決断した。
- = 北朝鮮の核開発問題は、韓国との関係においてフィリピンと北朝鮮との国交交渉に影響を与えた。



経済安全保障 =フィリピンの経済成長を優先

フィリピンが経済成長を進めるため貿易や投資の拡大を追求する中で、韓国との関係はより重要性を増していた。経済安全保障の重要性の認識が高まる状況下、フィリピン政府が韓国政府への配慮なしに北朝鮮との交渉を進めることは難しい。



フィリピン・韓国の二国間貿易額は、1992年の1.01 billionから1993年には1.25 billionへと25パーセント増加しており、韓国はフィリピンにとって7番目の貿易相手国、フィリピンは韓国にとって20番目の貿易相手国となっていた。

## 5. 国際情勢の変化と国交樹立

- ・1990年代末頃、北朝鮮をめぐる国際情勢に緊張緩和の兆しが見え始める。
- ・フィリピンと北朝鮮の国交交渉も前進する。きっかけとなったのは 北朝鮮のASEAN地域フォーラム(ARF)への参加であった。

北朝鮮のARF参加を促進するために、フィリピンは交渉を進める必要

⇒2000年7月12日に両国の国交が樹立された。

#### <小括>

- 国内安全保障上の脅威、核開発疑惑、韓国への配慮など、国交樹立 交渉を停滞させる要素は少なくなかった。
- 最終局面を除き、フィリピンが国交樹立を優先課題として位置づけ 急いだ様子はない。



### 6. 停滞する両国の関係

- ■北朝鮮の核・ミサイル問題とフィリピンへの脅威
- ①北朝鮮のミサイル発射実験がフィリピンの領土を直接脅かすことを 懸念
- ②フィリピン人海外労働者が多く住むアジア太平洋諸国にとって安全 保障上の大きな脅威。韓国で働くフィリピン人出稼ぎ労働者の安全に 対する懸念。

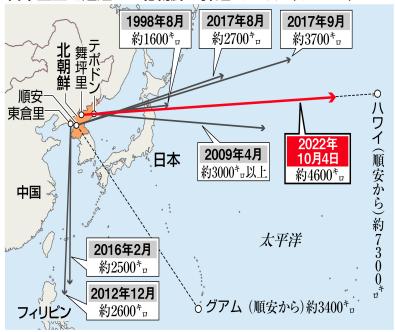
#### ■国連制裁との関連

・こうした脅威に対してフィリピンは、声明などによる非難・抗議に加え、国連決議に則した対応をとってきた。

例)2017年7月4日と28日、北朝鮮は弾道ミサイル発射実験を行った。 これらの行動に対し、2017年8月5日に国連安全保障理事会決議が採 択された。そして2017年9月、フィリピンは度重なるミサイル発射実 験をめぐる国連安保理決議に従うため、北朝鮮との貿易関係を停止し た。

これにより、フィリピンと北朝鮮の貿易は大幅に減少した。

#### 日本上空を通過した北朝鮮の弾道ミサイル(イメージ)



### むすび

- ・北朝鮮がフィリピンの国内外における安全保障上の脅威(共産主義勢力や核・ミサイル)に関りがあることから、それらに対するフィリピンの認識が、フィリピンと北朝鮮の関係の展開に影響を与えてきた。そうした状況下、両国の国交は、国際社会における2000年代前後の融和ムードに後押しされ樹立された。
- 近年、北朝鮮の核・ミサイル開発により両国の関係が後退する状況にある。北朝鮮による核・ミサイル開発推進に変化が見られない限り、北朝鮮との関係改善に本腰を入れることはなさそうである。
- フィリピンは韓国との関係をこれまで以上に重要視し始めている。南シナ海をめぐる中国との対立により、フィリピンは安全保障上の能力向上の必要性を再認識している。そうした状況下、国軍の近代化を含めた能力向上においては、韓国からの武器援助が極めて重要になってきている。